

令和6年元旦に起こった能登半島地震から一年が過ぎました。元旦が命日となり「おめでとう」と挨拶ができない方々を思うとき、胸が痛みます。楽しい家族団欒が一瞬のうちに地獄絵と化してしまいました。考えるほどに、今ここに生きているということは、奇跡なのだと思います。平常とは奇跡の積み重ねなのです。悠久で広大無辺な宇宙の片隅に、皆様と生きていることを思うと、この奇跡を大切にしなければと思います。令和7年、2025年、巳年、今年こそ平穏な年になって欲しいものです。令和2年のコロナ禍から5年がたちました。今なお、新型コロナウイルスをはじめとした感染症が猛威を振るっています。昨年末からのインフルエンザA型の流行は年末年始の休暇を直撃しました。不十分な医療体制の中で、発熱や全身痛に苦しめられた方々がたくさんいらっしゃったと思います。毎回のごとく申していますが、マスクと手洗い、帰宅時のうがいがとても大切です。密閉、密集、密接（3密）をできるだけ避けること、3密に陥った場合は必ずマスクをすることを忘れないでください。今年が皆様にとって、素晴らしい年となりますように祈念いたします。

【最近目立つ病気】

A型インフルエンザが大流行しています。新型コロナウイルス感染症もみられます。胃腸炎が増えてきました。アデノウイルス感染症、溶連菌感染症、RSウイルスやヒトメタニューモウイルス感染症もみられます。様々な感染症が同時に流行しています。

【マイコプラズマ感染症】

マイコプラズマ感染症は、マイコプラズマという病原体による感染症で、様々な症状をきたします。肺炎を起こすことがあります。一般的な肺炎と異なり、学童期から成人にみられ、高齢者には少ない感染症です。ほとんどが軽症で、自然に治ることもあります。ごく稀に重症化することがあります。コロナ禍では流行は確認されていませんでしたが、現在の流行は最後に流行した2016年の流行を超える大流行となっています。

マイコプラズマ肺炎では、発熱、倦怠感、頭痛、咽頭痛などの症状がはじめて、数日後に、咳嗽（せき）が出てきます。せきは、痰を伴うことが少ない乾いたせき（乾性咳嗽とよびます）が特徴で、解熱した後も長く持続することがあり、「長引く頑固なせき」と表現されます。呼吸器症状以外にも、稀ではありますが、中耳炎、皮疹、心筋炎、ギランバレー症候群（神経の炎症で手足が動きにくくなるなどの症状があります）など肺以外の病気を合併することもあります。

他の呼吸器感染症と同様に、飛沫感染が主体です。潜伏期は2～3週間で、患者と濃厚に接する家族内、もしくは、職場内などの小集団でしばしば拡がりますが、インフルエンザのように短期間で地域での大規模な感染拡大が起こることは稀であるとされています。ただし、学校で流行を引き起こし易いことから、子供が学校で感染し、家庭にもちこむことによる家族内感染事例も多く発生しています。

予防は、新型コロナウイルス感染

症と同様で、マスク着用、石けんによる手洗いやアルコールによる手指衛生および換気などを行いましょう。

本感染症の診断がなされ、有効な抗菌薬で治療が行われた場合、一般的には2日前後で解熱することがほとんどですが、熱が下がらない、せき、そのほかの症状が悪化する場合は、再度、受診してください。

https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/news/gakkai/gakkai_mycoplasma_r241126.pdf（一部抜粋）



【インフルエンザ】

全国でインフルエンザの感染が急拡大しています。今年流行しているのは「インフルエンザA pdm09型」で、全国で検出されたインフルエンザの9割を占めています。2009年にパンデミックとなった型です。当時は『新型インフルエンザ H1N1型』と呼ばれていました。『A pdm09型』の特徴はとにかく感染力が強いということで、一人がかかると家族全員が感染するほどです。主な症状は、発熱、せき、喉の痛み、筋肉痛、全身の倦怠感で新型コロナウイルス感染症と似ています。また、『A pdm09型』の特徴に『下気道感染』を引き起こしやすいことがあげられます。声を出す部分より下の部分、肺に近い部分が下気道と言われています。下気道に感染が起こると、痰の量が増えたり、咳がひどくなったり、悪化すると酸素化が悪くなって呼吸困難が出てきます。

効果的な予防方法はやはり『手洗い』『マスク』です。手洗いのポイントは石鹸などで30秒以上かけて洗うことです。ただし手荒れがあると細菌の繁殖も多くなりウイルスが付着しやすくなるので、手洗いと保湿をセットで行うのが重要です。マスクについては、正しく装着すると、飛

沫の飛散を5分の1に減らすことができます。そして吸い込みも4分の1に減らすことができ、感染リスクを20分の1に減らすことができます。ポイントは、鼻の部分をごゅっと押さえて漏れをなくすること。さらに、多くの人がマスクをつけることでリスク軽減につながります。

【HPV ワクチンキャッチアップ接種】

HPV ワクチンのキャッチアップ接種の期限が当初令和7(2025)年3月までとなっていたことが、厚生労働省より条件付き延長が発表されました。

【平成9(1997)年度生まれ～平成20(2008)年度生まれの女性】は、ヒトパピローマウイルス(HPV) ワクチンを令和7(2025)年3月までに1回でも接種していれば、残りの分は令和8(2026)年3月31日まで公費で接種できます。



☆西念の駅西福祉健康センター内の金沢広域急病センター（TEL:222-0099）では19時30分から23時まで小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は3/4の予定です。なお、2/23は急病センターにて当番医の予定です。

☆金沢市では乳幼児の任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆当院のHp (<https://kabata-cl.jp>) から順番待ちシステムにアクセスできます。ネットで順番予約ができますので、ご利用ください。

☆世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

